

〔 特 集 〕

小さく生まれた赤ちゃん ～NICU を退院したあと～

ご存知の方も多いかと思いますが、日本の新生児医療は世界最高水準で、特に在胎 28 週未満の超早産児の管理においては国際学会で欧米諸国から意見を求められるほどです。

一方で、日本の新生児医療の素晴らしい成績は新生児医療者だけで成り立っているわけではありません。新生児医療は人生の出発点に過ぎず、NICU（新生児集中治療室）の退院が赤ちゃんと家族の人生のスタートです。その先に多くの専門職の助けを借りながら成長していく必要があるため、新生児医療はまさにその線上の 1 つの「点」に過ぎないのです。新生児を専門としないながらも蘇生対応をしてくださっている小児科の先生、産科の先生、未熟児網膜症を診てくれる眼科の先生、小児病棟の看護師、理学療法士、保育士、臨床心理士、ケースワーカーさん……等本当に多くの職種の方々がかわってくれるお陰で、日本の多くの赤ちゃん達が救命され成長発達を伸ばしてもらっています。

当然ながら多くは何事もなく生まれて順調に退院するため、NICU に入院し新生児医療の恩恵を受ける赤ちゃんやご家族はごく一部です。この日本の新生児医療の素晴らしさは、一般の方々はもちろん、専門職のなかでも詳しくは知られていません。

今回、その新生児医療の最近のトピックを豪華な、というか豪華過ぎる布陣の先生方にわかりやすく解説いただきました。いろんな職種の方に是非ご一読いただければ幸いです。最後にご協力いただいた先生方、企画提案をいただいたチャイルドヘルス編集チームの先生方、誠にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学教室／今西洋介）

